

最上の子どもたちのために

未来へ

紡ぐ

- ◆ 最上教育事務所指導課通信
- ◆ 令和7年 7月7日
- ◆ 最上教育事務所指導課
- ◆ 第4号

初任者研修・中堅教諭等資質向上研修合同授業研

令和7年5月29日(木)

新庄小学校を会場に、中堅教諭等資質向上研修と初任者研修を合同開催しました。今回の研修には、中堅者13名、初任者21名(小学校等22名、中学校等12名)から出席いただきました。研修の中では、お二人の中堅研受講の先生から授業を公開していただきました。事後研のグループ協議では、「子どもが主体となって学んでいる場面が、本時の目標の達成にどのようにつながっていたか」について、活発な協議が行われました。

また、中堅者の先生からグループ協議のファシリテーターを務めていただき、初任者の先生方の疑問や授業づくりについて、これまでの実践を基に、丁寧にアドバイスする等、ミドルリーダーとして頼もしい姿がみられました。

授業の様子



授業者：高木 ちひろ 教諭
6年社会「わたしたちの願いを実現する政治」



授業者：姉崎 壮一郎 教諭
2年算数「図や表を使ってスッキリつたえよう」

協議の様子



○受講者の声

- ・中堅の先生方の授業を参観する中で、教師の立ち位置など、明日からの実践に取り入れてみたいと感じることが多くありました。グループ協議では、中堅の先生方が授業を見る際の視点を知ることができ、大変刺激を受けました。(初任者)
- ・中堅の先生方の授業や事後研でのファシリテートから、子どもの声を生かす工夫や同僚の先生方と協働する際のコツなどを学ぶことができました。(初任者)
- ・提案授業について、様々な視点からの振り返りやアイデアをいただき、大変学びになりました。経験年数が異なる教員同士で意見を交流できたことも、大きな刺激となりました。(中堅教諭)
- ・提案授業を参観する中で、子どもの言葉をつなぐスキルや、課題に迫るための手立てなど、明日から実践に生かせる多くのことを学ぶことができました。また、新採の先生方とともに研修したことで、初心を忘れずに11年目をスタートさせていこうという気持ちを新たにすることができました。(中堅教諭)

新規採用教職員のみなさんへメッセージ

初めてのことでただけだと思いますが「やってみよう！」と素直な気持ちで楽しんでください！周りにいるたくさんの方を頼り、相談し合ってください。一緒にがんばりましょう！

健康第一！1年目だからこそできる体験をたくさんしてください。

初めてのことがたくさんあって、不安なことや心配なこともあると思いますが、所属校の先生方を頼ったり、同期の先生に相談したりすれば、乗り越えていけると思います。うまくリフレッシュしながら、子どもたちと笑顔で過ごしていってください！

1年目、何も分からず、大変なこともあると思いますが、周りの人をどんどん頼って助けをもらいながらがんばってください。何より、同期の仲間と力を合わせてがんばってください！一人じゃない！！

昨年とはかく授業をがんばろうと思ひ、ひたすらがんばりました。分からないこと、できないこと、私と一緒に1つずつクリアして行きましょう。がんばろう！！

「1年目よりも2年目のほうが大変」とよく聞きますが、そんなことはありません！1年目の方が、先の見通しが持てず、毎日全力疾走で大変でした。同じ最上地区の仲間同士、頑張りましょう！

2年目の先生方から勇気が湧くメッセージをいただきました！

切れ目ない支援連携協議会兼自立支援ネットワーク構築会議 令和7年6月13日(金)

最上管内の福祉関係、園・学校関係者、民間支援関係機関、市町村教育委員会が一同に会し、特別支援教育や不登校の状況及び関係機関の取組みについて情報交換を行いました。さらには、「すべての子どもの自立と社会参加を支える関係機関の役割を踏まえた連携の在り方について」をテーマに、自立・社会参加のイメージを共有し、それを支えるために各立場からできるアプローチについて話し合いました。

話題になったこと

【自立・社会参加のために必要な力】

- ・人間関係を築く力
- ・自分で居場所や進路を選択する力
- ・なりたい自分を思い描く力
- ・助けを求めろ力 等

【自立・社会参加支えるためにできること】

- ・幼いころから地域とつながる体験・経験の機会づくり
- ・些細な成長を認め、褒める。(自己理解し、自己肯定感がもてるように)
- ・相談窓口・機関同士の顔が見える関係づくり
- ・それぞれの役割・立場からの情報共有

参加者の声

- ・チーム学校による組織的な対応の必要性を改めて感じた。「今できたこと」をほめ、「みんなで」支えていく必要性を感じた。
- ・様々な形で支援に携わっている方々と有意義な話ことができました。特に、高校と義務教育とのつながりについて考えさせられていたので、色々アドバイスをいただけたのでよかったです。
- ・同じ悩みを共有することができた。それぞれの頑張りを知り、お互いの立場を知り、「一緒に!!」という思いが強くなった。

最上地区小学校体育実技指導者講習会 令和7年6月26日(木)

We スポーツクラブを会場に最上地区小学校体育実技指導者講習会を開催しました。本研修会では、令和7年度体育・保健体育指導力向上研修(東部ブロック)を受講いただいた高橋恭祐先生(金山小)を講師に水泳運動系について伝達講習していただきました。最上地区において水泳運動系の講習会を開催するのは17年ぶりとなりました。

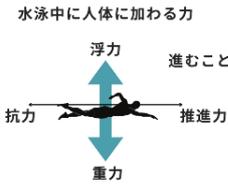


講師：高橋恭祐 教諭(金山小)



講習会の様子

講師資料から



浮くために
出来るだけ多くの身体の部位を
水の中に浸すことにより、
より多くの浮力を得ることが出来る。

浮きたければ「もぐる」こと

進みたければ「ゆっくり動かず」
【クロール】

- 3少ないストローク数にチャレンジ
(1) 15mを5ストローク以内
(2) 25mを10ストローク以内
・伸びで5m、1ストロークで2mを基準とする。
・パディヤトリオで相互チェック→学び合いの促進



講義【6年間を見通した指導計画づくり】

- 山形県学校教育指導の重点における各教科等の指導の重点(体育・保健体育科)について
 - ①系統性を踏まえた指導内容の充実
 - ②「する・みる・支える・知る」「共生の視点」を踏まえた学習活動の充実
- 年間指導計画・単元計画づくりについて
 - ①6年間の見通しをもった年間指導計画の作成
 - ②つけたい資質・能力を明確にし指導と評価の一体化を図った単元計画

講義より

1 系統性を踏まえた指導内容の充実

(1) 年間指導計画

□ 学習指導要領の指導内容の2学年のまとまりや4年間の系統性に配慮する。

小1～小4	小5～中2	中3～高3
各級の基礎の基礎を 増やす時期	多くの領域の学習を 経験する時期	卒業後も運動やスポーツに 多様な形で関与することが できるようにする時期

生涯にわたる豊かなスポーツライフ
の実現に向けて



2 「する・みる・支える・知る」共生の視点」を踏まえた学習活動の充実

年間指導計画作成上の留意事項

- ①学校(体育的行事等)や地域(気候や文化等)の実態を考慮
- ②児童の心身の発達の段階や特性に即して。
- ③小学校6年間の見通しを持って2学年のまとまりを意識。幼児期からのつながりや、中学校以降を見据える
- ④各学年の目標や内容、授業時数、単元配当を的確に(領域のバランスをとる)
- ⑤運動領域と保健領域の関連を踏まえた単元配列

受講者の声

・水泳の指導に関する研修はなかなかないので、有意義な時間だった。特に中学年の指導内容である「浮く運動、潜る運動」領域の内容が多く、泳ぐための基盤として、浮く感覚を体感させていくことの重要性を学ぶことができました。
・水泳は苦手なのですが、今年体育で初めて水泳を指導することになったため、すごく貴重な研修となりました。子どもたちも水が苦手な子が多くいるので、段階を踏んで楽しく授業できたらと思います。

M-TEP A: 若手育成型 主体的に学ぶ研修者の様子

日時	学校名	氏名	支援の内容	主体的に学ぶ研修者の様子
6月18日	真室川中学校	伊藤 謙伸 教諭	国語科における単元を貫く課題や魅力的な課題、適切な評価方法等について	迷ったときには学習指導要領解説に立ち返り、単元の目標や内容を確かめながら、今後の授業を考えている様子が見られました。
6月24日	真室川あさひ小学校	矢口 明香 教諭	副読本を有効に活用した社会科の授業づくり	単元を通じた授業づくりについて考え、多面的・多角的にとらえるために副読本や資料の使いどころを考える姿が見られました。
6月24日	真室川あさひ小学校	富樫 ひなの 教諭	コミュニケーションの楽しさを体験し、英語好きな子どもを育てる外国語の授業づくり	日々の授業づくりの工夫が、児童の主体性(自分の考えや気持ちを英語で伝えたい)にどのように結びついているのかを振り返る姿が見られました。

※M-TEPについては随時申し込みいただけます。支援内容については相談ください。

「Plant」あるある Q&A②

Q: 研修の要項は、申し込んだ研修者本人でないとダウンロードできないのでしょうか?

A: 研修者が申し込んだ後であれば、学校管理職 ID でログインし、「研修申込管理」から研修対象者の研修名をクリックすることで、ダウンロード可能な要項等が表示されます。

